

《 7 月 2 8 日（水） 》

1) 上海環球金融中心視察

上海環球金融中心は、発展著しい上海市においても近年急速に開発が進められ、新都心として最も注目を浴びている浦東新区に建設された、上海市を代表する高層建築物であり、高さは世界第3位の492m、展望台の高さは世界第1位の474mであります。

当日は、上海環球金融中心有限公司の山下 副総経理から施設の概要等について説明を受けた後、展望台へ上り、眼下に広がる上海市の街並みを展望しました。

【山下 副総経理の説明】

上海環球金融中心は、日本の森ビルグループが、上海市におけるビジネス・文化・エンターテインメントの拠点となることを目的として建設した複合施設である。

1997年に着工し、当初は2001年の完成を目指して建設が進められたが、アジア通貨危機やSARS等の影響を受け計画が中断した。5年間の中断の後、建設が再開され、事業着手から14年間を経て2008年によりややく完成した。

建物内には、ホテルやオフィス、ショッピングモール、会議室等があり、7階から77階を占めるオフィスフロアには日本やドイツなどの外資系企業が入居し、約1万人が働いている。

建物上部に位置する台形の穴は、風によるビルへの加重を軽減するために設置されたものである。当初計画では円形であったが、日本の日の丸を連想させることから、「上海の空に日の丸を掲げることは許さない」「日本が中国を見下ろすようだ」などという指摘を受け、現在の形に変更されたという経緯がある。



《展望台からの眺め》



《山下副総経理から説明を受ける》

高層ビルが林立する上海市においても群を抜く高さで斬新なデザインで、上海市のランドマークとしての地位を築いている同ビルが、日本企業の手によって建てられたものであることは、事前に認識はしていたものの、改めて大きな感銘を受けました。

地上474mの展望台からは、上海市の街並みを一望することができ、また、現在も新たな高層ビルが次々と建設されている光景を見て、発展著しい上海市の力強さを実感しました。

2) 上海市人民代表大会表敬訪問・歓迎昼食会

上海市中心部に位置する新錦江ホテルにおいて、大阪府議会代表团と共に上海市人民代表大会への表敬訪問を行いました。上海側からは、劉雲耕主任、胡煒副主任をはじめ、常務委員会各小委員会の委員長が出席されました。

まず始めに、劉主任から挨拶があり、続いて、大阪府議会、大阪市会の各代表が挨拶を行いました。

【劉主任の挨拶】

上海市2千万人の市民を代表して、大阪府市代表団の来訪を心から歓迎する。ご存知のように、上海市は大阪府市共に30年以上の友好都市関係を有しており、その間、政府レベルだけではなく、民間レベルにおける往来も大変盛んに行われ、各分野における交流も深まりつつある。

特に上海市人民代表大会は、大阪府市それぞれの議会とも非常に良好な関係を築いており、私が常務委員会主任に就任した2008年には大阪府議会議長を、翌年の2009年には大阪市会議長をお迎えすることができた。

本日は、上海市人民代表大会常務委員会の主任、副主任の他、全ての小委員会委員長が出席しているが、これだけのメンバーでお迎えすることは異例であり、この度の訪問に対する我々の歓迎ぶりを感じていただけたらと思う。

現在開催中の上海万博は、日本を始め世界各国の方々の協力により順調に進んでおり、入場者数は現時点で約3500万人を数えている。我々は、この万博を大きな勉強の機会であると認識しており、これを機会に世界の方々と交流し、経済や社会の発展、そして未来の都市づくりの理念について学んでまいりたいと考えている。

ちょうど昨日から、上海市の人民代表大会常務委員会会議が始まり、韓市長から上半期の経済社会状況等についての説明を受け、800人の常務委員会委員は上海市の政策に対し良い評価を行った。具体的にはGDPは前年同期比の13%増、歳入額は23%の増と非常に良い結果であった。

今会期中に、我々は地方の立法、法律の審議、採択等を行う他、政府の政策に対するアドバイスや提案を行うこととなっており、同様の会議を通常2ヶ月毎に開催している。

私たちの活動を理解していただくために、具体的な説明をさせていただいたが、この度の訪問を通じて、上海市人民代表大会と大阪府市両議会との交流がより一層緊密なものとなることを心から願っている。

【荒木議長の挨拶】

劉主任、胡副主任をはじめ皆様方とお会いできたことを大変嬉しく思う。

本日は、大阪府議会の皆さんと共に招きいただいたことに感謝申しあげるとともに、260万人の大阪市民を代表して、上海万博の成功を心からお祈り申しあげます。

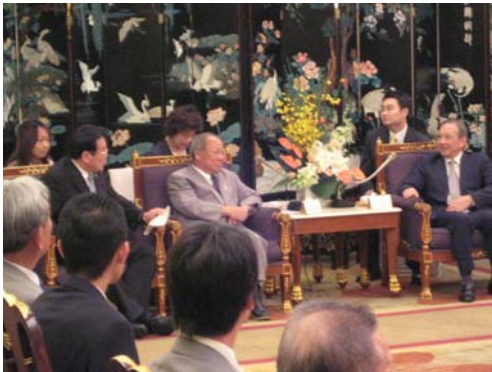
この度の訪問では、上海万博における各種イベントへの参加の他、様々な方々との意見交換を行い、今後の大阪市政に大いに参考にしていきたいと考えている。既に昨日は洋山深水港や楊樹浦浄水場等を訪問し、貴重なご意見をお伺いすることができた。

我々大阪市会代表団は、一昨日より上海市を訪問させていただいているが、非常に勢いと活力のある上海市の街並みを拝見し、大変感銘を受けた次第である。

大阪市と上海市は、1974年に友好都市提携を行い、これまで様々な分野において交流を深めてきた。また、ビジネスパートナー都市としても提携関係にあり、経済面においてはもちろんのこと、上海市と大阪市の交流が幅広い分野で発展するよう、引き続きご支援・ご協力をいただきたいと考えている。

本年4月に、太田議員を団長とする大阪市会海外視察団が訪問させていただいたことに引き続き、このような場を提供いただいたことに対し、深く感謝申しあげます。

これを機会に、大阪と上海、ひいては日本と中国の友好関係がより一層深まることを期待している。



《劉主任（右端）との会見》



《劉主任から荒木議長へ記念品の贈呈》

挨拶終了後、記念品の交換を行いました。上海市人民代表会からは上海万博中国館をかたどったガラス製の置物が、大阪市会からは大阪城の絵が刻印された錫製の朱肉入れがそれぞれ贈呈されました。

表敬終了後、隣の会場へ場所を移し、上海市人民代表会主催の歓迎昼食会が開催されました。昼食会には表敬出席者の他、鄭祥林 駐大阪中華人民共和國総

領事など中国側関係者も多数出席され、一つの円卓を囲んで和やかに歓談しました。



《歓迎昼食会の様子①》



《歓迎昼食会の様子②》

[現地における新聞報道] 7月29日付 解放日報より



刘云耕会见日本大阪客人

本报讯 (记者 王海燕)昨天,市人大常委会主任刘云耕在新锦江大酒店会见松田英世副议长率领的日本大阪府议会代表团和荒木幹男议长率领的大阪市议会代表团。

刘云耕向客人介绍了今年上半年上海经济社会发展情况。他说,上半年,上海经济社会运行态势良好。世博会的召开,对上海的经济、完善城市管理长效机制体制也起了很好的助推作用。这些年来,上海和大阪两地开展了广泛而富有成效的交流合作。相信大阪府议会及大阪市议会代表团的此次来访,必将推动双方友好关系的进一步发展。

市人大常委会副主任胡炜会见时在座。

(要約)

劉雲耕氏、大阪の要人と会見

昨日、上海市人民代表大会常務委員会劉雲耕主任が新錦江大酒店で松田英世副議長を代表とする大阪府議会代表団、荒木幹男議長をはじめとする大阪市会代表団と会見した。

劉雲耕氏は、今年上半期の上海の経済動向や、発展状況について紹介し、好調ぶりをアピール。万博の開催は上海の経済発展や都市経営において大きく貢献するとした。ここ数年来、上海と大阪は、幅広い範囲で交流や協力を進めており、今回の大阪府議会と大阪市会代表団の訪問は両地域の友好関係をさらに深めることになるだろうと述べた。

上海市人民代表大会常務委員会副主任の胡炜氏も出席した。

3) 上海万博視察

万博会場内で開催される「大阪スペシャルデーイベント」への出席に先立ち、会場内の視察を行いました。

上海万博は、「より良い都市、より良い生活」をテーマとして掲げ、2010年5月1日から10月31日までの6ヶ月間に渡って開催されております。発展途上国において開催される初めての国際博覧会であり、参加している国・地域、国際機関の数は史上最多の246にも上り、来場者数は史上最多の7,000万人を見込んでいたとのことでした。

万博の混雑ぶりについては事前にニュース等により知ってはいましたが、実際に目の当たりにした会場の様子は想像を絶するものでありました。各国のパビリオンには何処も長蛇の列ができており、特に中国館や日本館など人気のあるパビリオンは常に3時間から4時間待ちの状態でありましたが、連日の猛暑にも関わらず、多くの人々が列を作っていました。

我々代表団は、中国館→日本館→日本産業館→大阪館の順に視察を行いました。上海市人民代表大会等関係各位のご尽力のおかげで、効率的に視察ができるように入館させていただくことができました。

○ 中国館

最初に訪れた中国館は、上海万博の中でも最も人気のあるパビリオンであり、入場ゲートにはひと際多くの人々が列を作っていました。まず目を引いたのは「東方の冠」を表す堂々とした外観であり、開催国の威信を懸けて建設されただけあって、他のパビリオンを圧倒する迫力が感じられました。

館内は、第一展区「東方の足跡」、第二展区「探索の旅」、第三展区「低炭素の未来」の3つのゾーンに分かれておりましたが、時間の都合上、第一展区のみを見学しました。

まず向かったシアターでは、改革開放以来の中国の生き生きとした発展の経過や未来への展望が大画面により放映されておりました。特に印象的だったのは、四川大地震により未曾有の被害を受けた被災地において、中国各地から集まった人々が自らの危険を顧みることなく被災者の救助にあたり、復興に向けて努力していく様子が描かれていた場面であり、数々の民族問題を抱える中、中国国民の結束を内外にアピールしようとする意図が感じられました。

次に向かった展示スペースでは、幅100mを超えるスクリーンに、故宮博物院に所蔵されている「清明上河図」がCG映像で再現されており、そこに描かれている人物や馬などがまるで生きているかのように動いている様子は、見るものを圧倒するものがあり、中国の技術レベルの高さをまざまざと感じさせられました。

我々が見ることができた部分は一部分だけでしたが、総工費約230億円を

かけて作られた中国館は、中国の伝統と民族の融和、大国としての技術・文化レベルの高さが強調されたパビリオンでありました。



《清明上河図のCG映像》



《中国館ロビーにて》

○ 日本館

次に訪れた日本館は、「生命体のように呼吸する環境にやさしい建築」をテーマに建てられたものであり、中国で不老不死の象徴とされている「蚕」の繭をイメージした外観は、大変印象的なものでありました。

展示内容は、展示ゾーン、プレショー、メインショーの3つのゾーンで構成されており、日本の文化・地域の紹介や、日中の交流が表現されていました。

最初に向かったメインショーでは、朱鷺（とき）の復活をモチーフにした音楽劇が約10分間に渡り上演されていました。この音楽劇は、日本の能と中国の伝統芸能である昆劇を融合させ、最新の映像技術と共に、朱鷺を通じて環境保全の大切さを表現するものでした。

次に向かったプレショーでは、里山の風景に囲まれた空間の正面に設置されたスクリーンにおいて、日中の友好を象徴する物語として、朱鷺の復活までに至る短い映像記録が上映され、続いて、日本の最新映像技術やロボット技術が披露されていました。

その他、展示ゾーンでは、日本の伝統文化や地球環境問題解決に向けた先端技術などが様々なかたちで表現されていました。

全体を通して、日中の友好交流の歴史と日本の技術力の高さを中国の人々に感じてもらうという意図が感じられ、我々と共に鑑賞していた多くの中国の方々も、非常に関心を持っておられたことが印象的でした。

近年、中国の人々の日本に対する関心が高まりを見せており、日本への旅行者も年々増加している中、日本の伝統文化の美しさや、ダイナミックな都市景観、そして、東アジアの隣国として互いの友好関係をアピールすることは大変意義深いことであると感じました。



《メインショーの様子》



《プレショーの様子》

○ 日本産業館

日本産業館は、いずれも日本を代表する異業種企業と自治体が連合して創り上げたパビリオンであり、「日本の創るよい暮らし」をテーマとし、新しい日本美「きれい、かわいイ、きもちいイ」を全世界に届けるというキャッチフレーズが掲げられておりました。

まず最初に目を引いたのは、建築足場材を組み合わせた、さながらビルの建築現場風の外観でした。その壁面では3体のロボットが手足を器用に使って移動しており、そのインパクトのある外観をバックに写真撮影をしている方々が多数見受けられました。また、入口付近には日本から複数の飲食店が出店されておりましたが、大阪でもお馴染みのたこ焼き店などには大変な行列ができており、日本の食文化に対する中国の人々の関心の高さを感じることができました。

館内は大きく分けて、日本産業全般を紹介するテーマ劇場と、各企業毎の展示スペースに分かれておりましたが、時間の都合上、我々はテーマ劇場の視察のみを行いました。

テーマ劇場では、「宴 UTAGE」をテーマに、日本の伝統文化や現代芸能などが、縦長の大きな画面においてダイナミックな映像により表現されておりました。約6分間という短い上映時間ではありましたが、日本の美しい伝統美をはじめ、近年アジア各国でも注目を集めている、日本のアニメキャラクターやアイドルグループなども登場し、軽快なテンポと音楽に乗せて、現代日本の活力に満ちた姿が表現されておりました。

日本産業館は、民間企業が中心となって出展されているだけあって、日本産業の持つ活気と魅力が効果的に表現されており、日本館とは一味違った角度から日本の良さが表現されておりました。



《日本産業館の外観①》



《日本産業館の外観②》

○ 大阪館

最後に訪問した大阪館は、世界を代表する都市が先進的都市事例を展示する「ベストシティ実践区」に、日本の都市として唯一出展したものであり、大阪市と大阪府が中心となって設立された上海万博大阪出展実行委員会により出展されたものであります。

今回の出展では、「環境先進都市・水都大阪の挑戦」をテーマとして掲げており、3つのエリアに分けて、水都大阪の魅力や水都再生の取組、大阪・関西の環境先進技術が展示されておりました。

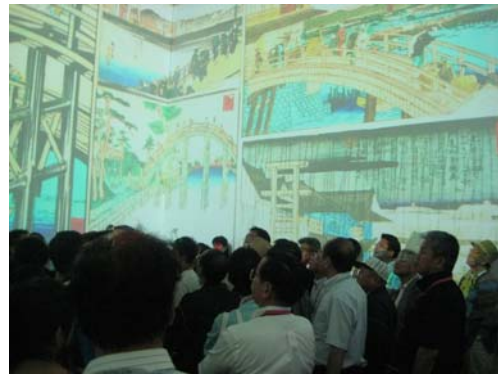
まず我々を出迎えたのは、「なにわ大放水路」と同じ内径6.5mのトンネルでした。このトンネルの壁面には、大阪造幣局の「桜の通り抜け」をイメージした大阪の春の風景が、美しい映像により紹介されていました。

トンネルを抜けた先には様々な展示コーナーやシアターが設置されており、上海と大阪の友好関係の深さや、水と共に発展し続ける大阪の魅力がパネルや映像を通して表現されておりました。特に「なにわの時空シアター」では、周囲360度を囲んだスクリーンに過去から現代までの大阪の生き生きとした姿が映し出され、大変印象的でありました。

シアターを出た所には特別展示があり、高度な技術により再現された「豊臣期大坂図屏風絵」や世界最大級の金貨である「天正長大判」、大阪城天守閣の鯨などが展示されており、来館者の目を引いておりました。



《大阪館の外観》



《なにわの時空シアター》

大阪館は、国家館などに比べると規模としては小さなものでしたが、来館者数は1日につき概ね1万人程度ということで、目標とする140万人は達成できる見込であるとのことでした。今回の出展は、中国の人々に大阪をアピールするという点で一定の効果があげられるものと確信しましたが、この効果を一過性のものとすることなく、今後の大阪と上海、ひいては大阪と中国の友好交流に役立てていく必要があると実感しました。



《豊臣期大坂図屏風絵》



《「ほんまや」を手に記念撮影》

4) 大阪－上海友好盆踊り大会

各パビリオンの視察を終えた後、上海万博会場内、ベストシティ実践区内にある城市広場において開催された「大阪－上海友好盆踊り大会」に出席しました。

このイベントは、大阪スペシャルデーイベントの最後を締めくくるものであり、会場には、大阪からの参加者約500名、上海市民約200名が参加し、盛大に開催されました。

我々は、大阪府議会代表団など大阪側来賓と共に舞台に上がり、又、舞台上に設置された櫓には平松市長、橋下大阪府知事、中国側来賓のほか、中村美律子さんや河内屋菊水丸さんなどが上がられました。

各来賓からの挨拶の後、平松市長からの「ほな、そろそろやしまひょか。大阪

スペシャルデーイベント、『大阪ー上海友好盆踊り大会』はじまり、はじまり」という大阪弁による開会宣言により、盆踊り大会が始まり、我々も舞台から降り、一般の参加者と共に踊りの輪に加わりました。



《盆踊り大会ステージ上にて》



《平松市長による開会宣言》

初めのうちは、大阪からの参加者による見事な踊りに上海の方々もやや圧倒されている感じではありましたが、中村美律子さんによる「河内おとこ節」や河内家菊水丸さんによる「河内音頭」の軽快なリズムに乗せられて、上海の方々も見よう見真似で踊りに参加し、次第に大きな踊りの渦ができてきました。

今回の盆踊り大会は、万博会場内で開催されていたこともあり、当初参加していなかった万博来場者も、賑わいを聞きつけ、飛び入りで参加されました。その結果、最終的な参加者は約2000名にまで膨らんだということを知った後、大いに驚いたと同時に、イベントが予想以上の成功を収めたことに大変嬉しく思いました。

今回の大阪スペシャルデーイベントは、上海万博に集まった人々に大阪をアピールすると同時に、大阪と上海の友好交流を促進することを目的として開催されましたが、盆踊りの輪の中で、大阪の人々が中国の人々に踊りを指導し、一緒になって笑顔で踊りを楽しんでいる姿を何度も見かけることができたことは大変印象的なものであり、盆踊りという日本の風物詩を通じて互いの相互理解を大いに深めることができたことを確信しました。



《盆踊り大会会場の様子》



《代表団員も踊りの輪に参加》

《 7月29日（木） 》

1) 上海市都市交通施策（リニアモーターカー）視察

上海市のリニアモーターカーは、上海市浦東地区郊外の龍陽路駅と浦東国際空港をつなぐ延長30kmを結んでおり、超高速運転のリニアモーターカーで一般営業を行っている世界唯一の路線であります。

龍陽路駅に到着後、まず建物内にある見学施設において、担当者より概要説明を受けました。

【上海市担当者の説明】

このリニアモーターカーは、2001年6月30日に着工し、2002年12月31日に開通したものであり、総事業費は約1,393億円である。

車両についてはドイツの技術により開発されたものであり、設計上の最高時速は505km/hであるが、現在は最高時速431km/hで営業しており、龍陽路駅と浦東国際空港間の約30kmを約7分20秒間で結んでいる。

車両についてはドイツの技術であるが、軌道の技術については自国開発である。これはヨーロッパの国々は社会主義国家への技術提供は行わないため、自国において開発せざるを得なかったという理由があるが、様々な試行錯誤の末、世界に誇れる技術を開発することに成功した。

運行区間内にはカーブが5つあり、最小半径は650mである。ただし、このカーブは必要性があったために作られたものではなく、カーブにおいても速度を緩めることなく曲がり切ることができる技術の高さをアピールするためのものである。

運転は全てコンピューター制御により行われており、運転手が乗車する必要はない。しかしながら、無人運転ということから来る搭乗客の不安を解消するため、実際には運転席に乗務員を座らせている。

中国政府は、現在の運行区間を延長し、上海市と杭州市の約175kmをリニアモーターカーで結ぶことを計画している。この計画が実現すれば、両市間の所

要時間は約20分となり、最高時速も500kmとなる予定である。

◇ 質問：1日あたりの利用者数は何人くらいか。

◆ 答え：平均で約1万5千人程度である。なお、その内の約8割が空港利用者である。

◇ 質問：カーブにおける遠心力への対策はどのようなものか。

◆ 答え：最高で約12度の傾斜をつけることにより遠心力を抑えている。

◇ 質問：軌道のメンテナンスにはどれくらいの手間が掛かるか。

◆ 答え：車両と軌道の摩擦による磨耗の心配がないため、メンテナンスはかなり楽である。



《担当者より説明を受ける》 《リニアをバックに記念撮影》 《最高時速 431km に到達》

2) 嘉興経済技術開発区表敬訪問・歓迎昼食会

嘉興市は、浙江省に管轄されており、市域面積は3,915平方キロメートル、人口約500万人を有する地区級都市であります。地理的には、中国東部沿海地域の中中部及び経済発展が目覚ましい揚子江デルタ地域に位置しており、上海、杭州、蘇州の3都市まで約1時間から1時間半でアクセスできるため、国内外から多くの企業が進出しております。

嘉興経済技術開発区は、市中心部から約3km西方に位置しており、1992年に浙江省政府から認定された五大重点開発区の一つであります。

嘉興経済技術開発区招商局への表敬訪問は同開発区内のホテルにおいて行われ、招商局側からは金文峰 副局長が出席されました。表敬は昼食会を兼ねて開催され、金 副局長が日本語が堪能であったこともあり、食卓を囲みながら同開発区の投資環境等について活発な意見交換を行いました。

【金副局長の説明】

嘉興経済技術開発区は、面積65平方キロメートル、人口約20万人を擁し、区域内には約1000社余りの企業を有している。その内、外資系企業数は約300社であり、日系企業も50社が進出されている。主な産業は、自動車部品、精密機械、IT、食品加工、高級紡績である。

開発区内は、3つの工業団地、3つの商業住宅エリア、2つの物流団地、1つのハイテク・ソフトウェアパークに分かれている。

嘉興市は、静岡県富士市と姉妹都市提携を行うなど、日本との関係を大変重視しており、私自身も年間2回程度訪日し、プロモーション活動を行っている。

現在、国内外の多数の企業から有力な投資先として注目をされているが、その第一の要因としては立地の優位性があげられる。上海、杭州、蘇州などの大都市との間をつなぐ交通網も充実しているため、いずれの都市からも約1時間から1時間半の距離にあり、また、上海港や洋山港などとも比較的近い距離にあるということも要因の一つであると考えられる。

土地の使用については、50年間を使用期限とする土地取得権を取得する必要があるが、その金額は比較的安く、また、労働者の最低賃金は980元と、上海市の1200元に比べても、比較的安価な労働力を確保することができるという点もメリットとして挙げられる。

日本企業は非常に高い技術力を有し、これまで中国において多くの製品を生産してきたが、最近では生産地点としてだけでなくマーケットとしての中国に注目が集まっており、中国企業との合弁企業を設立し、生産から販売までを中国国内で一貫して行う手法がトレンドである。

◇ 質問：積極的に企業誘致を行うことの最大の目的は、やはり雇用創出か。

◆ 答え：最大の目的は地域経済の発展である。開発区内の労働力はほとんどが地方からの労働者で賄われているため、雇用の創出に力を入れる必要はそれほど無い。

◇ 質問：中国においては、これからどのような産業が伸びると考えるか。

◆ 答え：一人っ子政策により子供を大事に育てる風潮があり、子供関連の産業は大きく伸びていくものと考えている。

◇ 質問：日本企業の誘致に際し、主にターゲットとしているのは、どの程度の規模の企業であるか。

◆ 答え：大企業は、ほとんどが既に中国へ進出しているため、今後は中小企業をターゲットとして誘致活動を行っていきたいと考えている。



《昼食を囲みながらの意見交換》



《金副局長から荒木議長へ記念品の贈呈》

昼食会終了後、開発区内にある日系企業の一つである千代田電子（嘉興）有限公司を訪問しました。同社は愛知県豊川市に本社を置く千代田電子工業株式会社が、2003年に現地法人として設立したもので、主にOA機器などに使用されているワイヤーハーネスの生産を行っている会社です。山本貴史 総経理のご案内のもと工場内を視察しましたが、働いている労働者のほとんどが10代から20代と若い世代であり、単調な作業を黙々とこなしている姿が大変印象的でした。



《山本総経理から説明を受ける》



《工場内を視察》

3) 上海市商務委員会表敬訪問

上海市虹橋区にある新虹橋大廈において、上海市商務委員会への表敬訪問を行いました。商務委員会側からは趙抗美 副主任が出席され、活発な意見交換を行いました。

【荒木議長の挨拶】

本日は、大変お忙しい中、貴重なお時間をいただき心から感謝申しあげる。

本年5月から開催されている上海万博では、非常に多くの方々が上海の地を訪れており、世界中から大変な注目が集まっている。

私たち大阪市会代表团も、昨日上海万博を訪問し、中国館、日本館、日本産業館、大阪館を見学させていただいたが、いずれのパビリオンにおいても非常に長い行列ができており驚かされたのと同時に、中国のスケールの大きさを改めて感じた。

上海万博では、大阪市は大阪府と共に、日本の都市として唯一となる大阪館を出展し、水都大阪の魅力を、中国をはじめ世界中に発信しようと頑張っている。加えて、来場者により広く大阪をアピールするため、スペシャルデーイベントを開催した。

また、この度は、各種イベントへの参加のみならず、今後の大阪市政の参考とするため、様々な分野の方々とお会いさせていただいている。つい先程は、嘉興経済技術開発区を訪問し、大変貴重なお話をお伺いした。

大阪市と上海市は、1974年に友好都市提携を行い、これまで様々な分野に

において交流を深めてきたが、この友好関係が、幅広い分野でより一層発展するよう、引き続きご支援とご協力をいただくようお願い申しあげる。

今後の両市のますますの発展と、趙抗美 副主任のご健勝とご活躍を心からお祈りを申しあげる。

【趙副主任の挨拶】

この度のご訪問は、上海市民の大阪に対する関心をより一層高めるうえでも、大変意義深いことであると考えている。

大阪は日本を代表する工業都市として非常に有名であり、上海にも数多くの企業が進出している。また、ここ数年、両市間の様々な分野における交流とコミュニケーションが非常に頻繁に行われている。例えば、上海の浦東国際空港も大阪の関西国際空港を参考として建てられたものであり、建設用地として海を埋め立てたことや、空港内の各種システムについては、関西国際空港から学んだ点が非常に多い。また、今後の経済発展の中心としてサービス業の発展を重視しており、これまでの大阪の経験を上海の発展に生かしていければと考えている。特に、大阪は美食の街としても有名であり、外食産業などにおける良質なサービスの提供により、国内外から多くの人々を集めてまいりたいと考えている。

国内における両市の地位も非常に似通っており、政治的な中心が北京と東京であるのに対し、上海と大阪は経済的な中心地である。そういう意味でも上海市商務委員会としては、皆さんのご訪問を大変嬉しく思う。

上海市商務委員会では、上海と大阪の経済交流を促進することを目的として、大阪に駐在事務所の設置も行っている。

現在中国市場では、液晶テレビやデジタルカメラなど、日本の電化製品に対する需用が非常に高まっている。中国では経済の発展に伴い日本製品に対する需要が高まっており、日本との経済的な結びつきは益々強まって行くものと思われる。

今後も様々な分野において、中国と日本、上海と大阪の交流は深まっていくものと考えているが、上海市商務委員会としては、特に経済の分野において、緊密な関係の構築に努めていきたいと考えているので、皆さんのご支援とご協力をお願いしたい。

◇ 質問：上海市商務委員会は、非常に大きな組織であり、業務の範囲も大変広範囲であるが、スタッフの数は何名程度か。

◆ 答え：スタッフの数は約250人であり、上海市の各機構の中でも比較的大きいものである。

◇ 質問：上海市内の日本人学校には約2500人が在籍しており、その数は世界1位であるにも関わらず、投資額では日本は世界で第3位であると伺っている。日本より上位の国はどこか。

◆ 答え：1位はイギリス、2位は香港地域であるが、いずれも資産運用を行う企業である。従って、生産型企業による投資額では日本は第1位である。

- ◇ 質問：海外からの進出企業に対して、商務委員会から貸付等を行う制度はあるか。
- ◆ 答え：企業に対して直接の貸付や融資を行うことはできないが、企業が銀行等から融資を受ける際の信用保証を行うことはできる。
- ◇ 質問：経済発展に伴い、上海市における労働者の賃金も上がってきていると伺っているが、製造業の進出は今後も伸びると考えるか。
- ◆ 答え：労働者賃金の上昇に伴い生産コストが上がっていることは確かであるが、上海市はそのコストに見合う付加価値を提供することができるため、今後も製造業の進出は伸びていくものと考えます。



《趙副主任から説明を受ける》



《趙副主任との記念撮影》

《7月30日（金）》

全ての日程を昨日までで終え、お昼の便で上海浦東国際空港から帰国の途につきました。上海浦東国際空港には、入国時と同様、羅副処長を始めとする上海市人民代表大会常務委員会外事処の方々が来られ、我々を温かく見送ってくださいました。

○ 総括として

この度の出張では、4泊5日という限られた期間ではありましたが、我々代表団に課せられた所期の目的を概ね達成することができ、大変実り多いものでありました。

まず、本出張の最大のテーマであります上海万博への大阪館出展を盛り上げるという点におきましては、上海万博大阪スペシャルデーイベント及び各種関連行事への出席を通じて上海市政府や議会の要人と活発な意見交換を行った他、一般市民の方々とも直に触れ合うことができ、大阪館のみならず、大阪市や日本に対する理解を大いに深めていただくことができたかと確信しております。

また、上海市人民代表大会常務委員会を始めとする関係諸機関との交流におきましては、友好都市、ビジネスパートナー都市としての関係を今後より一層強化していくことが必要であるとの認識を改めて共有することができ、両市の発展に向けてさらなる交流の進展に努めていくという意志を再確認することができたことは、大変有意義なことでありました。

その他、各種都市行政施策についての視察におきましては、上海市が明確なビジョンと強い意志に基づき都市経営に邁進している姿を目の当たりにし、都市の発展には、自らが目指す明確な将来像を持ち、その実現に向けて事業の選択と集中を行うことの重要性を改めて認識することができました。

中国最大の経済都市である上海市は、国内外から多くのヒト・モノが集まり、今や世界を代表するグローバル都市として発展を遂げており、今回の万博開催を契機としてより一層飛躍していくものと思われまます。

しかしながら、共にアジアを代表する都市として、隣国のライバル都市の発展は、自らの衰退に繋がる危険性もはらんでおり、大阪市としては、これまで築いてきた友好関係を最大限に活用しつつ、共に発展していく道を模索していく必要性を強く感じました。この度の出張において得た経験を、今後の市政運営に最大限生かしてまいりたいと考えております。

最後に、滞在期間中、大変お世話になりました上海市人民代表大会常務委員会外事処を始め現地関係諸機関の皆様方に心から感謝申しあげ、この度の出張の総括とさせていただきます。